

令和5年産 水稲 コシヒカリ 栽培しおり

JA香川県小豆地区営農センター
監修:香川県小豆農業改良普及センター

■ 適正な管理で品質向上を図りましょう。 ■ 毎年種子更新100%に取り組みましょう。
■ 稲わらは焼かず、すき込みましょう。

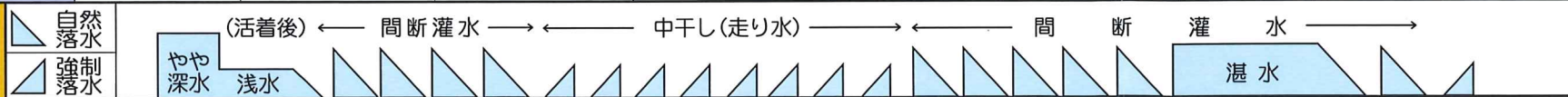
作業の目安

水管理

栽培管理

施肥基準

生育相	分げつ期							
	活着時期	茎が増える時期	茎の増加を抑える時期	穂ができる時期	穂が大きくなる時期	穂に実が入る時期		
作業	移植日	間断灌水開始 (移植15～20日後頃)	中干し開始	けい酸加里施用 (出穂35日前頃)	中干し終了 (出穂25～20日前頃)	穂肥施用期 (出穂16日前)	出穂期	収穫期
早期栽培	4月25日	5月10日	5月25日	6月10日	6月20日	6月29日	7月15日	8月16日～8月19日
	5月1日	5月16日	5月31日	6月13日	6月23日	7月2日	7月18日	8月19日～8月22日
	5月10日	5月25日	6月9日	6月19日	6月29日	7月8日	7月24日	8月25日～8月28日
短期栽培	5月20日	6月4日	6月17日	6月25日	7月10日	7月14日	7月30日	8月31日～9月3日
	6月1日	6月16日	6月27日	7月2日	7月17日	7月21日	8月6日	9月8日～9月11日
	6月10日	6月25日	7月5日	7月7日	7月22日	7月26日	8月11日	9月14日～9月17日
	6月20日	7月5日	7月15日	7月15日	7月28日	8月1日	8月17日	9月20日～9月24日



調製 乾燥 收穫 (走り水) 落水	必須防除 3回目	病害虫防除基準参照		3回目 必須防除 畦畔管理 湛水管理 必須防除 2回目 穂肥	中干し終了	中干し開始	中期除草	溝切り	間断灌水	初期除草	移植 必須防除 1回目 代かき 基肥 土づくり 育苗
籾摺は、乾燥後一昼夜以上経過したのちに行つ。 玄米の仕上がり水分は14.5～15.0%とする。 適期収穫に努め収穫後は3時間以内に乾燥に移す。 籾の85～90%短期栽培は80～90%が黄変したら刈り ないよう走り水を行つ。 収穫作業に支障のない限り遅らせ、落水後も田が乾き クサネムは収穫前に抜き取る。	（出穂10日前頃～出穂10日後頃） 穂ばらみ期から傾斜するまで湛水管理する。 カメムシ対策として、畦畔等の草刈は出穂10日前までに 病害虫防除基準参照 葉身長をみて、施肥量を削減する。（施肥基準参照） から施す。ただし、水稲の生育状況（葉色、下位節間長、 移植時期から出穂期を予想し、幼穂長1.5cmを確認して 丈夫な根を維持する。 出穂25～20日前頃には終了し、間断灌水を再開し、 適切な中干しにより節間の伸長を抑え倒伏防止を図る 地際節間の伸長期にあたるので、生育状況に応じた 施肥基準参照。出穂40～20日前頃は、倒伏に影響する 亀裂幅が1cm程度になったら、走り水を行つ。 小さなヒビ割れができる程度にとどめる。 開始する。極端に干しすぎないよう田面が黒乾きで 移植25～30日後（茎数が20本以上）になれば中干しを 発生した雑草の種類に応じた適期除草を行つ。 から2～3m間隔に行つ。 溝切りは、移植15～25日後、土をやや固くして （2～3日湛水、2～3日落水） 移植15日後頃より間断灌水を始め、根をさすを防ぐ。 少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。 除草剤施用後、3～4日間は湛水し、 移植後、やや深水にし、活着後は浅水にする。 浅植え（植付深度2～3cm）とする。 植付本数は3～4本、株間18cm程度とし、 病害虫防除基準参照 代かき直前に施用する。（施肥基準参照） 土壌改良資材を施用する。（施肥基準参照） 健苗づくりに努める。（別紙、水稲育苗のしおり参照）										



(悪)過度な中干し
(大きなヒビ割れができると
根が切れてしまう)



(良)適度な中干し
(亀裂幅1cm程度とする)



出穂
(穂先が茎から現れた状態)



出穂期
(全茎数の4～5割が出穂
した時期)



クサネム



カメムシの被害(着色粒)

●穂肥施肥体系		(kg/10a)			
堆肥	肥	総量	基肥	出穂 35日前頃	穂肥 (出穂16日前)
粒状ユーキ鉄ケイカル または 粒状くろがねシリカ	施用は水稲収穫後の冬季とする。 施用後は速やかに鋤きこみ、 土壌に十分混和させる。	500	500		
		100	100		
コシツータッチ	早期栽培(5月15日迄の田植え)	50	30		20
	短期栽培(5月15日以降の田植え)	40	25		15
けい酸加里		20		20	

●基肥1回施肥体系		(kg/10a)			
堆肥	肥	総量	基肥	出穂 35日前頃	
粒状ユーキ鉄ケイカル または 粒状くろがねシリカ	施用は水稲収穫後の冬季とする。 施用後は速やかに鋤きこみ、 土壌に十分混和させる。	500	500		
		100	100		
コシ - 発 J	早期栽培(5月15日迄の田植え)	50	50		
	短期栽培(5月15日以降の田植え)	40	40		
けい酸加里		20		20	

- ＜留意事項＞
- ① 原則としてつなぎ肥は施さない。特に基肥1回施肥は、上乗せで追肥をしない。
 - ② 側条施肥は基肥を2割程度減肥する。
 - ③ 野稈跡や肥沃地では減肥する。
 - ④ レング跡の基肥は、レングの出来具合や鋤込み時期によって異なるが、基肥量を2分の1から3分の1程度に減肥する。

病害虫防除基準

防除時期	対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量・回数
種子消毒	稲こ枯線虫	スミチオン乳剤1,000倍(は種前/1回/6～72時間浸漬)
	ばか苗病、こま葉枯病、いもち病	テクリドCフロアブル200倍(浸種前/1回/24時間浸漬)
必須1回目 緑化期から 移植当日	いもち病、紋枯病、ウンカ類	ビルダープリンスグレートム粒剤 50g/箱(1回) (スタウトダントツ箱 粒剤 50g/箱(1回)) (但し紋枯病には効果なし)
必須2回目 いづれか使用 出穂10日前 (粒剤の場合) 出穂直前～出穂期 (水和剤の場合)	いもち病、紋枯病、 ウンカ類、カメムシ類	イモチエーススタークル粒剤 3kg (収穫35日前まで/1回) ノンプラスバリダントツフロアブル1,000倍 150ℓ (収穫14日前まで/2回以内)
必須3回目 いづれか使用 出穂7～10日後 (粒剤、豆つづの場合) 出穂10～14日後	カメムシ類、ウンカ類 カメムシ類、ウンカ類、 コブノメイガ、イネナガ	スタークル粒剤 3kgまたはスタークル豆つづ 250g (収穫7日前まで/3回以内) トレボンEW 1,000倍 150ℓ (収穫14日前まで/3回以内)

※出穂直前に粉剤で防除を行う場合は、飛散に注意し下記の薬剤を使用する。
穂いもち、ウンカ類、紋枯病、コブノメイガ、カメムシ 穂前期までダブルカットバリダントレボン粉剤 30L4kg
※「スタークル」を必須防除で2回使用した場合は、確認防除は、「スタークル」豆つづ、または「スタークル」
粒剤水溶剤のどちらか1回までの使用とする。

<確認防除>(10a当たり)

・いもち病	初発期(収穫7日前まで/2回以内)	ブラシフロアブル 1,000倍
・稲こ枯病、紋枯病	出穂25～20日前(収穫45日前まで/2回以内)	モンガリット粒剤 3～4kg
・紋枯病	出穂20日前(収穫30日前まで/2回以内)	リンパー粒剤 4kg
・コブノメイガ、イネナガ	若齢幼虫期(収穫30日前まで/6回以内)	バダン粒剤 4～3kg
・コブノメイガ、イネナガ	若齢幼虫期(収穫21日前まで/6回以内)	バダンSG水溶剤 1,500倍
・斑点米カメムシ類	必須防除後の多発期(収穫7日前まで/3回以内)	スタークル粒剤水溶剤 2,000倍
・斑点米カメムシ類、ウンカ類	必須防除後の多発期(収穫7日前まで/3回以内)	スタークル豆つづ 250g

※ノンプラスバリダントツフロアブルとブラシフロアブルは同じ成分を含んでいるため、両方の剤を含めて2回以内の使用とする。



葉いもち



紋枯病



トビウロウ

雑草防除基準

	散布時期・回数	除草剤名 10a当たり処理量	注意事項
初期 除草剤 (いづれか使用)	移植後3日～9日 ノビエ2.5葉期まで (移植後30日まで/1回)	ナギナタジャンボ 小包装(パック)10個	①散布後に補植(田直し)はしない。 ②散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。また、散布後少 なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。 ③軟弱苗、極端な浅植水田、漏水田では薬害の恐れがある ので使用しない。 ④多量散布、重複散布はしない。 ⑤1キログラムは育苗箱施用剤との誤用を避けるため、 別に保管しラベルの使用上の注意事項を守る。 ⑥フロアブル剤は4～5cmの湛水状態で手振り散布を行う。 ⑦ジャンボ剤は水深5～6cm程度の湛水状態で、パックの まま投げ入れる。なお、水面に浮草、藻類の発生が多い 時や強風時には、薬剤が拡散しにくく薬害がやすす いので、キクトモ1キログラム剤を使用する。
	移植直後～9日 ノビエ2.5葉期まで (移植後30日まで/1回)	イネキングフロアブル 500ml	
	移植時(田植同時散布)～9日 ノビエ2.5葉期まで (移植後30日まで/1回)	キクトモ1キログラム剤 1kg	
	移植後7日～ ノビエ3葉期まで (収穫30日前まで/2回以内)	クリンチャー1キログラム剤 1kg	① クリンチャー1キログラム剤、クリンチャージャン ボの使用法は初期除草剤に準ずる。
中期 除草剤 (いづれか使用)	移植後25日～ ノビエ4葉期まで (収穫40日前まで/2回以内)	クリンチャージャンボ 小包装(パック)30個	
	移植後20日～ ノビエ4葉期まで (収穫50日前まで/2回以内)	クリンチャーバスマE液剤 1,000ml、水70～100ℓ	① クリンチャーバスマE液剤は、落水後に散布し、 3～5日間は入水しない。 ② ワイドパワー粒剤は、落水散布または浅水状態 (水深1～2cm)で散布し、その後2日間は入水、落 水しない。散布後7日間は落水、かけ流しはしな い。 ③ 散布後2日以内に降雨があると効果が劣る場合 があります。
	移植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫60日前まで/1回)	ワイドパワー粒剤 3kg	

農薬散布の際には、近接ほ場の栽培作物に農薬が飛散しないよう細心の注意を払いましょう。 本田で農薬の湛水処理を行う際には、周辺環境の保全のため少なくとも1週間はかけ流しや落水をしないようにしましょう。 作成2022年11月
記載している薬剤の使用基準は2022.11現在のものであり、今後変更になる場合があるので使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容どおりに使用してください。 水田では、被覆肥料の肥料成分溶出後に被膜殻が浮上する事がありますので、被膜殻をほ場外へ流出させないように注意してください。